

令和7年度 北区立浮間中学校 学校経営計画

北区立浮間中学校

校長 齋藤 真弓

1 学校経営の基本的な考え方

本校が目指す教育

人間尊重の精神を基調として、これからの日本や国際社会において尊敬と信頼が得られ、豊かな社会の創造者及び自立して個人の育成を目指すとともに、「北区教育ビジョン2024」を踏まえ教育目標を設定する。

・校訓「真・善・美」～人間としてあるべき姿～

・育てたい生徒像 教育目標

- 自ら考え正しく判断し、主体的に行動できる生徒
- 感性豊かで思いやりのある、礼儀正しい生徒
- 心身ともに健康な生徒

重点目標 明るい未来を切り拓く生徒の育成

・目指す学校像

- 子どもが安心して学びに向かえる学校
- 保護者、地域に愛される学校
- 教職員が組織として協働し、高めあえる学校

・目指す教師像

- 学び続ける教師
- 人権感覚を兼ね備えた教師
- 教育公務員としての自覚をもった教師

2 中期的目標と方策

1 安全な学校（身体的安全）・安全な教室（心理的安全）づくり

あいさつ指導、安全教育、防災教育、人権教育、道徳授業の充実

学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通し、集団帰属意識の向上

2 確かな学力の保障

朝読書の継続、授業改善、適正な評価

3 不登校生徒の支援

校内別室・校外別室の活用、特別支援巡回教師の活用、校内委員会の運用

4 地域資源の活用

浮間図書館、浮間子ども・ティーンズセンター、PTA、スクールコーディネーター、
学校評議員、14自治会町内会、地域施設等

3 今年度の取組目標と方策

1 「あいさつ」

あいさつが自然にできる浮中生を目指す。

生活指導部、生徒会等を中心に取り組ませる。教師同士のあいさつも大切にする。

2 「朝読書」

生徒自らで本を選ぶことで主体性を育む。

浮間図書館、図書館指導員等を活用し、読書週間を身に付けさせ実行することで、努力が量として現れ、自己肯定感を育む。

毎朝10分間の読書を学級担任も含め、教室全体で行い、落ち着いた雰囲気の中で一日を始める。

3 「授業改善」

各教科で北区基礎・基本定着度調査、全国学力学習状況調査等の結果を分析し、きたコンの効果的活用の研究とアクティブラーニングを取り入れた授業改善を行う。

研究推進部を中心に、生徒の表現ツールとしてのきたコンの活用を提案していく。

家庭学習が個別最適な学びとなるよう、きたコンを活用していく。

4 「キャリア教育」

地域資源を活用し、より多くの方の生き方、考え方に触れる機会をつくる。

特別活動等で生徒が主体的に取り組む機会をつくる。

5 「ワーク・ライフ・バランス」

充実した教育活動を行っていくために、教師が生き生きと、情熱をもち働き続けることが大切である。

外部人材の活用、tetoru、まなびポケット等の活用により業務整理を図る。

時差勤務の活用、自己申告による定時退勤日の設定を行う。

男性職員の育休等の取得を推奨する。